

新人大会へ向けて～平常心を身につけよう～

一斉登校が再開して3週間が経過しました。生徒、保護者、先生方の感染対策等への協力により、本校の教育活動はほぼ予定通りに進めることができている。今後も新型コロナウイルス感染対策に、引き続き気を緩めずに対策をとっていきたいと思います。また、保護者の皆様方のご理解とご協力なくしては、本校の教育活動を充実させることはできません。今後ともよろしくお願いいたします。

さて、10月7日(木)から開催される中巨摩新人大会へ向けて部活動強化週間が9月28日(火)から始まっています。県教委のガイドラインに従い、これまで平日1時間30分の活動を続けてきましたが、10月1日からは、平日2時間の活動と土日の練習試合も行うことができるようになりました。これまで、分散登校であったり、練習試合等の交流が認められていなかったり、また練習時間の制限もあり、新人大会へ向けて準備不足の感はありますが、条件はどの学校も同じです。『あきらめない』気持ちを大切にしながら、最後まで努力を続けていきましょう。

さて、10月1日(金)には新人大会激励会を全校で行いました。どの部も目標を達成しようとその意気込みを話してくれていました。部活動には『目標』と『目的』があります。勝つことは目標です。そして、その目標を目指すなかで、勝負を超えた成長を遂げることが目的です。新人大会を通して、大きく成長できることを心から願っています。

過日、県の吹奏楽コンクールを勝ち抜き、9月10日(土)に埼玉県で開催された西関東大会へ出場し、銀賞を受賞した本校の吹奏楽部の3年生7名が校長室に報告に来てくれました。部長である福島叶望さんが次のように話してくれました。

私たち吹奏楽部は、7月30日に行われた山梨県吹奏楽コンクールにおいて、西関東大会出場を決めることができました。コロナの感染状況が悪化し、活動が危うい時もありましたが、限られた時間の中で、できる限りの練習を重ね、「玉幡サウンド」に磨きをかけました。西関東大会では、玉吹の合言葉である「いつも通り」を胸に、全員満足のいく演奏ができたと思います。名だたる強豪校が揃う中で、目標の金賞には届きませんでしたが、部員全員が達成感の笑顔で終わることができたので後悔はありません。これまで私たちを支え、応援して下さった校長先生をはじめとする先生方、保護者、友達、そして何より最後まで私たちに寄り添い、指導して下さった顧問の雨宮先生、すべての方々に感謝の気持ちでいっぱい입니다。この経験を今後の学校生活に活かせるよう、部員一同、精進していきます。(吹奏楽部 部長 福島叶望さん)



吹奏楽部の3年生と顧問の雨宮先生

新人大会へ向かう各部の選手のみなさんも限られた時間の中で、できる限りの時間を重ね、「いつも通り」を心がけてほしいと思います。

「いつも通り」を心がけるとは、まさに「平常心」（普段の心）のことです。オリンピックやプロスポーツ等で活躍するトップアスリートたちもこの言葉をよく使いますが、やはり真剣勝負や大切な本番で力を発揮するためにも「平常心」は大切な心の在り方です。大事な場面でも「恐れず、迷わず、疑わず、揺れない心」という意味がありますが、読んで字のごとく、平常（普段）の心（いつも通り）です。つまり、平常の生活（普段の生活）のレベルアップを意識することが、平常心を身につけることにつながるということです。難しいことはありません。「本番だけが本番ではなく、今日、今ここに本番がある」と意識して、あいさつ・返事・学習への集中・素直な心・感謝の心・思いやりのある心など、日常生活にこだわりを持って取り組んでいくことで、試合で自分の力を発揮することができる「平常心」を身につけることができます。今回は、そのことを私自身も改めて、学ばせてもらいました。



子育て談話室④～自立の第一歩、信頼して～

シリーズ4回目となりました。反抗期を迎えるわが子にどう向きあったらいいかという問いに対して、次のような新聞記事を見つけました。是非ともご一読ください。

最近わが子の態度が不愛想で不機嫌そうになってきた。呼びかけを無視したと思えば、急に乱暴な言葉で言い返したり、内にこもったり。中1の後半、ついにきたか反抗期。頭では理解していたのに、いざとなるとそんなわが子をどう扱っていいのかわからない。この間までかわいい小学生だったのに。この間までの無垢な笑顔はどこに行ったの？泣きたくなるお母さんは多いと思います。



部屋は散らかし放題、お風呂には入らない、スマートフォンを触り続ける……。こんなだらしない生活態度のまま大人になりやしないか心配だ。学校や友達についてうさいほど話しかけてくるわが子を、生返事であしらっていた頃が懐かしい。そして勉強。何度言っても宿題やテスト勉強に向かわない。こんな状態で中学校生活を続けて大丈夫なの？

大丈夫です、お母さん。だってご自身のお子さんじゃないですか。親がわが子を信用しないで、ほかのだれか信用しますか？大丈夫です。あるべき論はお母さんのおっしゃる通り。態度では真逆を演じている子供も頭ではちゃんと理解しています。「わかってないのでは」という不信感から口やかましく言ってしまおう。しかし、これはあなたを「信頼していませんよ」という信号に他ならず、想像以上に子供の精神的な成長エネルギーを奪います。大人も「君のことは信頼できない」と暗に言われたら、こたえるじゃないですか。

信頼や認める姿勢は魔法以上の力を持ちます。本当です。何があっても親は自分を信頼してくれている。態度には出さずとも子供は心の奥で受け止めて安心できます。そして子供が前進する力の源泉になる。

場合によっては、信頼している姿勢をわかりやすいくらいに演じてみましょう。「心の奥で信じている」では伝わらない。わが子に格好をつける必要はありません。親の素直な姿勢が子供には安心して心を休められる家庭環境になるのです。

反抗期は精神的なさなぎです。外から見えないけれど、内面で急速に成熟が進んでいる状態。動かなくて心配だからといって、さなぎを必要以上に刺激すれば、羽化不全の心配があるそうです。反抗期こそ自立の第一歩ととらえたら、わが子の生意気な態度も意味があると思えます。前向きな言葉と態度で包み込んであげませんか。

（「受験のココロ」より 井沢伸平 著）

